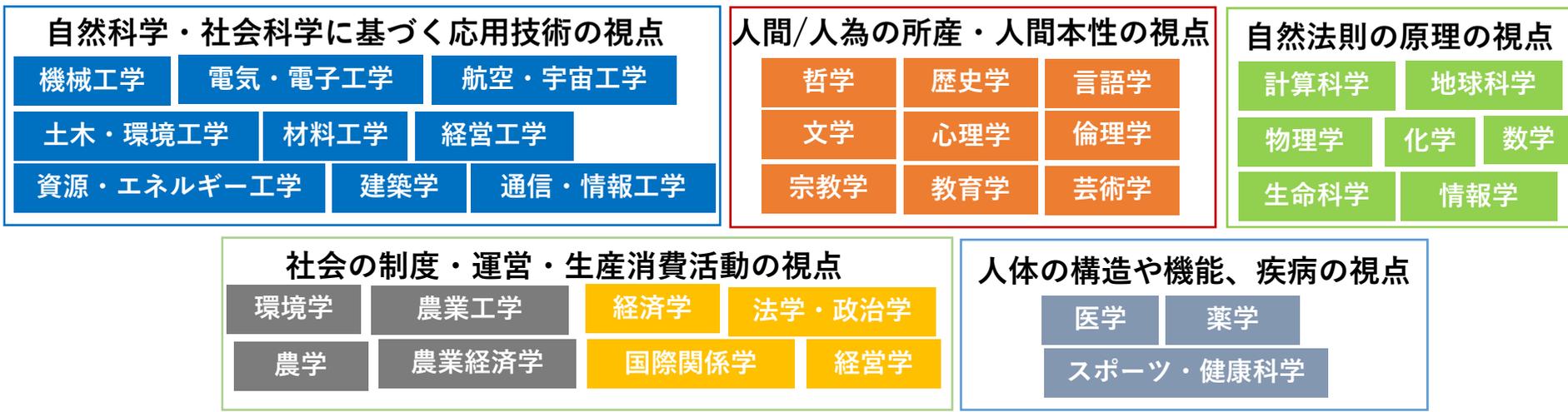


総合知の活用の先行事例 「空気の価値化」 ①

工学、理学、エネルギー学、社会学、経済学、哲学などの他分野からなる研究者と産業人とのラウンドテーブル方式での時間をかけた対話により、「コモンズ」、「社会的共通資本」を参考に「空気の価値化」の概念を議論している。その中で、未来社会の姿を描き、そこで生まれる「空気の価値化」の社会ニーズを予測し、「空気の価値化」が未来の社会や文化に与えるインパクトを想定し、「空気の価値化」を実現するための新技術、サービス、社会システムを構想することを目指している。



それぞれの視点を統合し、ヒトと社会、そしてそれを取り巻く自然環境の未来図を描いた上で「コモンズ」「社会的共通資本」等としての空気の価値を明らかにする。
 「花する空気」、「手入れした空気」、「空気に気づく」・・・
 個別に課題化されたテーマを再び各専門家が検討する。
 「社会システム、経済メカニズム、科学技術を連環させて、人とは何か社会とは何かを意識しながらよりよい社会を目指すための知恵を生み出すということが、これからの実学。」

「Cooling for All」「Beyond Cooling」「Air for Common good」の3つを検討を立体的・創発的に行うための発見的な仮コンセプトとして導出

総合知の活用の先行事例 「空気の価値化」 ②

ダイキン工業-東京大学 総合知 & 産学協創

